



ディスプレイの光学測定機器事業やコンサルティング事業などを手がけるアフロディ(株)(東京都町田市原町田1-13-1、☎042-1732-3160)は、ディスプレイの空間解像度を定量的に計測できる「MTF (Modulation Transfer Function)測定システム」(写真)を新たにラインアップに追加し、4月から販売を開始した。

アフロディ

空間解像度測定器を販売

同製品は画像・映像の鮮明度を定量的に測定するもので、これによりディスプレイパネルに搭載される部材や素材の組み合わせなどで生じる、見え方のほやけ具合を数値で捉えることが可能になる。映像発信機技術に強みを持つアストロデザイン(株)が開発した。同社では「MTF測定システム DTR-8031」にて

同製品は画像・映像の鮮明度を定量的に測定するもので、これによりディスプレイパネルに搭載される部材や素材の組み合わせなどで生じる、見え方のほやけ具合を数値で捉えることが可能になる。映像発信機技術に強みを持つアストロデザイン(株)が開発した。同社では「MTF測定システム DTR-8031」にて

パネルの高解像度化に貢献

2021年から放送業界などに向けて提案を進めている。アフロディは同製品の販売代理店として、パネルメーカーや、ガラス、フィルムなどの部材・素材メーカーに向けて、提案ならびに販売展開を促進している。

MTF測定システムは、カメラ、ノートPC、発信機の3つの機器からなる。シンプルなシステム構成の

ため、あらゆるディスプレイや素材・部材の空間解像度を定量的に評価することができるという。

測定方法である「Line Based法」はNHK放送技術研究所が開発し、発信機とソフトウェアのアルゴリズムの開発をアストロデザインが手がけた。このLine Based法は、映像の入力信号

(input)とディスプレイ画像信号(output)のずれの程度をカメラで撮影して計測するもので、安価なシステムかつ簡便な操作方法で、高い測定精度を実現している。今後、国際標準化規格に制定される予定だ。

「昨今はディスプレイの高解像度化が進み、8Kがスタンダードになる日も近い。この先、16K、32Kと

いった超高解像度ディスプレイも当たり前となる日が来るだろう。しかし、人間の感性に訴えることができるような美しいディスプレイパネルになっても、採用部材やその組み合わせによっては、最終的に高解像度の美しさが発揮できないことがある。これを、本来の空間解像度の基準値からどの程度のずれがあるか、な

いかを定量的に捉えられるようになることで、真に高解像度なパネルの普及に貢献できると考えている」(アフロディ代表取締役CEOの嶋秀一氏)。

アフロディは、ソニー(株)で長年にわたりディスプレイ関連事業に携わってきた嶋秀一氏により、13年11月に設立された。ディスプレイ表面のきらつきを測定する独DM&S社製ディスプレイ専用システム「SMS-1000」の日本販売総代理店を務めており、車載ディスプレイやノートPC向けで採用が進んでいる。また、同システムの測定方法はJIS規格にも採択された。

「当社はディスプレイや部材業界に強みを持つ。機器の販売やディスプレイに関連するコンサルティング業務のほか、測定サービスも行っている。近年はデモ機での計測ニーズも増えており、測定技術の提供やアフターフォローまで、ハードウェアとテクノロジーのソリューション提供を図っている。MTF測定システムは当社の既存製品のマーケットと共通しており、パネルメーカーや主要部材メーカーへの提案、コンサルティングやアフターフォローまでを提案できる強みを發揮している」(同顧問の柿沼孝一郎氏)。